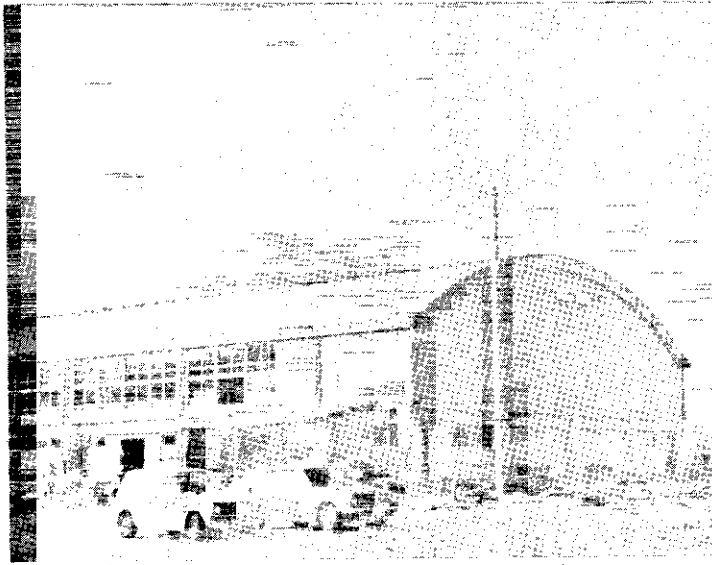


が ん ば



報行部
育友会
三小
島発
報部
印刷所
印刷
つるかわ
印

〔第46号〕

待望の体育館 三月に完成

私たちが待ち望んでいた、三小体育館がいよいよ三月に完成します。

体育館の規模は、総面積九五五・八平方メートル、フロアの広さが八三七平方メートル。ステージが一・八・八平方メートル、フロアは横二七メートル、縦三一米で、バレーコート二面、バスケットコート二面、正式バレー、バスケットコートの用意も出来ており、一小、二小、三中、三会中より、一〇〇平方メートルも広く、りっぱな体育館です。



一年間の反省

育友会長

吉田重信

一年の月日は、またたくまに過ぎ去ってしまいました。育友会にとりまして、本年度程いろいろな出来事があった年はないでありましょう。新しい会員をお迎えして新しい役員会員で育友会の活動が始められました。

各専門部の活動状況は逐次報告がなされ、会員皆様には既に御存知の事と思えますが当初取り上げました学級・学年育友会の在り方も自主運営を旨として幾つかの方法が打ち出され、また交通安全に、生活指導に大変熱心に活動していただき、大きな成果をあげました。

その活動の中で、仕事を分担された役員・会員の方々は本当にご苦労さまでした。体育館は、会員始め、地元皆様の御協力が実り、校舎の東側に現在80%程度出来上っておりますが、完成致しますと小学校の体育館としては県下一の大きさを誇り、社会体育にも充分使用出来る広さを持つており、卒業式は、この新しい体育館で行う事になっております。

百周年記念事業実施委員会

は、同窓会、百周年誌、記念碑建立、事業促進、の各委員会を着々と進められ、同窓会名簿百周年誌の編集に各委員の方々は奔走しておられます。また、記念碑は、校内の左側に自然石を土台石とした北村西望先生の題字によるユニークな碑が、建てられつつあります。

母校の百年を祝うため、各委員の方、卒業生の方々は、本当に御苦労をなさっております。

運動会は、日曜開催をお願いして何回となく話し合いを繰り返して、開催出来るまで確信を持っておりましたが、最後の最後になって平日でなければ出来なくなり、結果は会員皆様の御存知の通りです。

その後一ヶ月程経ってから「49年の運動会の日曜開催にあたって、50年の運動会は、「平日」という約束が出来ていた」という事を聞き及びどうして、それを私達育友会にも一言いってやらせなかったのか残念でなりません。

今後は、この様な事が無い様に子供達を中心に学校と育友会が、がっちりスクラムを

組んで、何事においても話し合いの場を多く持ち、お互いの気持ちをよく理解して、よい教育の場を作ろうではありませんか。

本年度は、特に、体育館百年運動会と例年にない出来事が多く、会員の皆様には、大変だったろうと思います。その間の御協力に深く感謝



本年度を顧みて

学校長 林田 長

昭和五十年度も既に終ろうとしている。

静かにこの一年を省みて、今更汗顔の至りである。浅学不徳がまねいた結果とはいえずに、残念至極である。

しかし、まず喜びに堪えないことは、総面積九六〇㎡の体育館が完成することである。待望久しかっただけに、そして県下小学校の中でも、おそらく屈指の規模の大きさ、立派さからいってもその喜びは格別である。

この建設は、本校の歴史に特筆すべきことであろう。育友会をはじめ、建設委員

致しております。

なほ、本年度で私も、育友会を、卒業する事になりました。長い間、何もなす事なく、会員の皆様や先生方、役員の方々には本当に御世話になりました。

厚く御礼を申し上げ、第三小学校及び育友会のますますの御発展をお祈り致します。

会、地域住民の方々の並々なぬ熱意と御努力が立派に実を結んだもので、学校として心から感謝申し上げます。

そして今後、学校教育に、社会教育に、社会体育の場として最大限の活用をはかり、御厚情にこたえねばならない。次に、学校教育の中で、本校のねらいの一つの柱である「児童の自立性と実践力の啓発」の場のことである。日常生活活動は勿論、各種の学校行事や、学年、学級行事が児童の手による計画、実践、評価がなされ、子供の目に輝きと誇りがあがっている事はまことに喜ばしいことである。

一人は教育によつてのみ人となる。「無限の可能性は、教

育によつてはじめて開発され、伸長していく。

私ども教育に身をおくものとして一日もおろそかにしてはいけない大事な事である。

次に、秋季運動会の実施について反省したい。

本年度はじめて、平日に、そして給食で実施することを決めたわけであるが、これも相当考えて、学校教育のねらいを逸脱していない最もよい機会として決めたのだが、運動会に対する永年の伝統とその伝統行事に対する愛着の念は予想以上に大きく、且つ堅かった。

そして、育友会ばかりではなく地区の方々、各学年層の方々から、手厳しい批判と叱咤をうけたわけである。

私たちは、この際こうしただご批判を、気持ちをも、十分聞き、そして素直にうけとめ、謙虚に反省した。

そして、来年度は、育友会の方々の意見も十分聞き、一体となつてより望ましい学校行事である運動会を実現するよう最大の努力をいたさねばならないと思う。

この一年間は、私の四十年に亘る教師生活の最後の年でもあったが、また苦難の多い年でもあったし、教育の姿、あり方について、最も考えさせられた年でもあった。

とにかく、一つ一つが、生涯忘れ得ぬ尊い年であったと今静かに過去をふりかえって

いる。

そして、本校が、今後質、量共に充実して、天下の第三

お別れの時

一組 中井悦枝

桜の花が開く頃入学し、あつという間もなく又、お別れの春が来ました。親子共、未知の世界に胸を高ぶらせながら入学し、多くの先生方、友達、父兄の皆様と交じり合いつながら成長して来ました。一日一日は長い六年間ですが、振り返ると何と短いものでしょう。色々な事が手にとる様に浮かびます。

遠足の朝、空模様が気掛かりで早く目覚めて山を眺めて安心したり、運動会でスタートラインに立つ我が子を見て転ばぬようにと、祈る気持ちで応援したり、授業参観の日、仕事のあい間に駆けつけ我が子を見ると、先生の話を聞いているのやらないのやら、大きな口をあげ、あくびをし、啞然とさせられたり、大きな怪我をし、とつても心配させたり、友人と些細な事で喧嘩をしたり、一日中立たされたり、四年生の時の社会見学でどしゃぶり雨で思う様に見学が出来なかったり、修学旅行の時、色々な出来事にふれ感

小学校としてますますの発展を、心からお祈りしてやまな

嘆したり、又ある日「白山が溶けて、海が見えるよ。」と言ひ、ある時は「遊園地が出来てるよ。」と。校舎の周辺も大きく変わりました。竹に節がある様に、今人生の大きな節が一つ出来ようとしています。考えてみますと、六年間に先生やクラスメイトと共に過ぎた時間が、どれほど長かった事でしょうか。

その間、多くの事を吸収して、ぐんぐん成長致しました。

今後、この良き土台に足を踏んばって前進して行く事と思ひます。長い間、すてきな先生方、友人達に恵まれ、本当に幸せでした。皆様の御指導を心から感謝致しております。最後に、創立百年の記念すべき年に、私もお別れせねばなりません。育友会の会員になりまして十二年間、お役に立ちませず、お世話になる事ばかりでした。長い間、本当にありがとうございました。皆様の今後の御発展を祈りながらお別れ致します。

さようなら

思い出

二組 隅部俊

白山上に創立百年の輝く伝統を秘めて静かに佇む島三小。

私は、かつて自分の子が入学の折ここに入学できたことを幸せに思うと書いたことを思い出しています。その子が卒業まで余すところ杓ヶ

月程になりました。従って、私達夫婦も三小校友会員としての資格を失う時期もそう遠くないことになるようです。

この間、短い年月でしたが、子供を媒体として、多くの方々との懇意になれた事を感謝しています。

その最たるものは、やはり町内育友会対抗バレーボール大会ではなかったかと思えます。

寄る年波も考えず、誘われるままに連続三回も出場、子供が三小児童でなければ、絶対といつてよい程、選手としては出られない年です。

おかげ様で、町の方々のお名前も、子供さん方も覚えさせていただき、町内PTAの時も発言しやすくなりました。親しみも倍加しました。親睦とは言葉ではなくて、活動を通して得られるものである事を改めて知らせていただきました。

子供達の教育が、学校を軸として、社会全体の責任として要請される今日、親同志の連帯感を深める機会をつくるよい催しといえそうです。

ただ、これが勝負にこだわら、選手のみバレー大会にならないように願いたいと思います。

第二に、学級PTA、第三に、町内PTAとあげなければなりません。ここでは省略させていただきます。

あげました事柄で、順番はどちらにしても、私の争うことではありませんが、バレーボールは、練習の為にお互いが、顔を合わせる回数が、他の比でない事は明らかかなようです。

勝手な理屈ですが、私はそういう意味で、第一番にバレーボールをあげさせていたいただきました。

三小に、子供が在学中であったために、全く無縁の方々と親しくなれた事を思う時、子供の入学の時の感激と同様今更ながら、三小育友会員になれて幸せだったと思えます。

六年間ありがとうございました



小沢 ユキエ

つい最近入学させたばかりで、アツという間の六年間のようでもあり、振り返ってみると、長い六六年間のようでもあります。

入学当初、手足の痛みを訴える度に、担任の先生とノートを交換をし、又、遠足はもちろんの事、運動会にも参加した事のなかった娘。

これではいけない。体力に自信をつけさせなければと、二年生最後の遠足の時「歩ける所迄歩いてごらん。後は先生がおんぶしてあげますから。」と言って帯を用意して下さった先生。

又、虫歯予防週間のポスターが、全国入選した時、在校の先生方はもちろんのこと、「おめでとう。先生は自分の事のように喜んでます。」という一枚の葉書。

「おめでとう。本当によかったね。」と言って下さった一

本の電話

これは現在退職なさって、家庭の人となっていていられる二年生担任だった園田先生と、他校へ転校なさった木下先生のお二人からの言葉です。このお二人の言葉が、娘にとってどんなに嬉しかったことか。

これを見て、先生と教息子との絆がどんなに深く強いものであるか、私の想像より以上のものであることをつくづく感じさせられました。

先生方から見守られているという安堵感が、これからの人生への励みと変わるのではないでしようか。

何事にも体当たりでぶつかっていき、それをぶち破る努力を惜しまない様な強い人間に育ってほしいと願っております。

「あなた達一人びとりが持っている未知の能力を育ててほしい、太陽の光を当て、水をやり、強くし、あなたの花を咲かせてほしい。見事に開花した時、たとえ花粉が毒を含み持っていようとも。」

これは、新聞を読んでいて、強く印象に残った言葉の一つです。

最後になりましたが、先生方の暖いご指導と皆様のご慈愛のもとに無事卒業させる事ができました事を心より感謝いたしますと共に、三小育友会の今後のご発展をお祈り致します。

父と娘



江崎 賢至

年月の経つのは早いもので満開の桜の花が散り舞う春四月、希望と喜びとで一杯の娘が三小に入学したのが、つい昨日のように鮮かに思い出されます。

この三小、六年間の生活は、娘にとって終生忘れ得ぬ思い出として、いつまでも残り、やがて、それは追憶という幸福感となって、心を包むことでしょう。

私の娘は、入学当時、体は弱く、そして、物事に引っ込み思案で、非常に神経質な子供でした。

然し、諸先生方の御教導によって、子供らしい積極的な性質に生まれ変わり、是非をわきまえる人間に成長して来た事を私共両親として、大変感謝致しております。

然し、私共の育った戦時中と比較して、物資の豊富な世

の中になって、子供達は幸福ではありましようが、何か心のうるおいが欠けているようにも思われます。

私は、戦争の激しい昭和十八年に、熊本中学校に入学致しました。

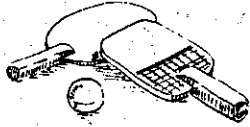
当時の校長は、福田源蔵先生と申して、偉い先生で、母に付きそわれて入学式に行つたのですが、その時、
一、幼な心を去って大人になれ

二、士君子たるように、努力せよ。……と話され、子供乍ら、当時非常に感銘を受けた事を、記憶致しております。

現代の物質文明社会の中で、旧弊じみた考えを娘達におしつけようとは思いませんが、三小での基礎教育を土台として、精神的にも心豊かな人間に成長して貰ってほしいし、又、これはすべての親の願いでもあると思います。

保健体育部

育友会1年間の歩み



一、七月二十七日

少年団球技大会：男子、ソフトボール

女子、フットベースボール

八月二十四日

水泳大会

九月二十一日

育友会、バレーボール大会

二小・二中体育館にて実施

五十一年度より、本校体育館にて実施

来るようにな

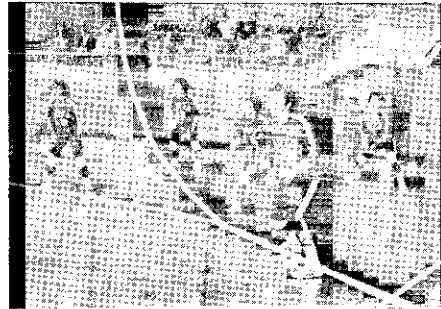
りました。

張り切って参加しましょう。

十一月九日

親子ハイキング実施

広報部



今年の広報部の集まりは「がんばん」のマンネリ化を打破しようとアンケート集めから始めました。

「がんばん」44号

発行 7月18日

「がんばん」45号

発行 12月22日

特集号「家庭学習について」

「がんばん」46号

発行 3月19日

※テーマ 原稿集め

編集「校正」の過程を得

て「がんばん」完成みんなの努力により、アンケート、特集号等、育友会の人達の好評を得て、夜遅く迄張り切ったかいがあったと部員一同喜んでいきます。



学習部



◎学級育友会の向上
月一度の授業参観と先生を囲んでの話し合い。

◎学級代議員の研修会

・北田市社会教育委員の話

・一年間の議題計画、二小

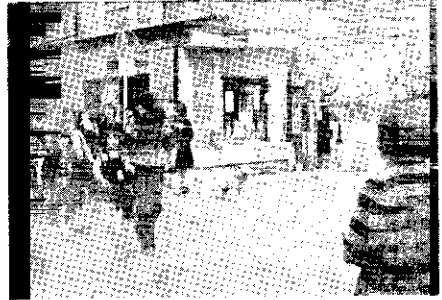
米飯給食視察



生活部

校外指導の一環として、子供達の健全な生活指導を行っている。

事故と非行の完全防止、又子供会の夏期旅行、キャンプ等。



交通部

交通事故から、学童の安全を守る為、公的機関に陳情に出かけたり、五月二十二日、お母さんの交通教室、自転車の点検、五のつく日の登校時刻の交通整理が行われました。



教養部

○五十年六月、研修旅行（佐世保白泊風小学校）大雨の中、全会員熱心に研修しました。

○育友会文庫の町内図書巡回、年間二回実施、新刊図書を加えて巡回。



環境部

八月夏休み中、霊南町、佐藤征生社様の御厚意により、東便所の清掃ができました。本校で、特に目立っていました。便所と変わりました。佐藤さんの御厚意に感謝します。



最優秀賞を

もらって

中村百合子

最近、とても嬉しい事がありました。

それは、最優秀賞というとてもりっぱな賞をもらったことです。

福岡まで行って、賞状や盾をもらって、とても心がうきうきし、嬉しく思いました。

何百万と応募のあったなか私の絵が、高学年の部で選ばれたのですから、これほど名誉なことはありません。

賞状をもらった瞬間、「よかったなあ。」と、ほっと安心する気持ちでした。

家に帰っても、みんなが、祝ってくれて、この時程、幸せだなあと感じたことはありませんでした。

りっぱな賞状や盾をもらって、父や母も喜び、おじいさんやおばあさん、おばさんなども喜んでくれました。

けれども、賞状や盾をもら
うまでは、本当に私の絵が選
ばれたのか、不安で不安でた
まりませんでした。

そして何日かたって、新聞
に、私のことが書いてあった
ので、ほんとうなんだなあ、
ほんとうに、私の絵が入った
んだなあと感じました。

もう、こんどこんな賞をと
ろうと思っても、もうとれな
いと思いますが、もしとれる
なら、もう一度とってみたい
と思っています。

このことは、六年のいい思
い出になりました。



読書感想文

ありがとう

チモシー

五年四組

大島さつき

この本を読んで、私は、ホ
ッとした反面、胸に熱いもの
が、込みあげてきました。

それは、爆弾を受け、沈む
船から、黒人チモシーが、目
の見えないフリリップ少年を
助け、人間としての生き方を
教えてくれた物語であります。

最後に、フリリップ少年を
嵐から守る為、大波の盾とな
り、チモシーは、死んでしま
うのです。

私は、可憐で、チモシー
の為に、お祈りをしました。
静かに、目をつむると、広
広とした大海原、のっぴなヤ
子の木の繁った小さな島、手
探りでサンゴ礁の岩場で、魚
を採っているフリリップ「ア
ッ、足をすべらした。危い。」
私は、思わず声してしまいま
した。

フリリップ少年達は、戦争
を逃れる為、アメリカへ引き

あげる途中、ドイツの潜水艦
に沈められ、チモシーに助け
られて、サンゴ礁の小島に流
れ着いたのです。

そして、チモシーの経験と
知恵によって、目の見えない
フリリップ少年は、生きる為
いろんな事を学び、最後は、
一人になって、助けられたの
です。

黒人だということ、誰も
見向きもしなかったチモシー
もし、このチモシーがいな
かったら、フリリップ少年も
生きていかなかったでしょう。

ただ、膚色が違うというだ
けで、一生を貨物船の工夫で
終わらせたであろうチモシー、
それを考える時、こんな世の
中であるならば、白人のフリ
リップ少年の暖い手を握りし
め、死んでいった方が幸せだ
ったでしょう。

いや、むしろその方が、幸
せだったでしょう。

私は、作者を恨みました。
なぜ、なぜ、嵐をよけ、波
をくぐりながら、フリリップ
少年をかばい、生きる道を教
えてくれたチモシーを、フリ
リップ少年と一緒に助けてく
れなかったのでしょうか。
そして、白人と黒人の限り

ない友情を、もっともっと深
めてほしいと思いました。
あれは、四年生の時だった
と思うのですが、私は、友達
とけんかして、学校から帰っ
て来ました。

そして、母に「どうした
の。」と聞かれ、けんかした
ことを話したら、強く叱られ
たことがあります。

「友達は、大切にしなければ
いけない。少しくらい腹がた
っても、我まんしてやること
が本当の友達ですよ。」とい
われました。

それから、「どんな貧乏な
人でも、勉強のできなない人
も、人を軽蔑することが、一
番いけないことだ。」と教え
てくれたのです。

私は、母が言ったことと、
「私達とは違う。」というひ
と言で、全ての黒人を差別す
る人達のことを思う時、悔し
さと腹立たしさで、いっぱい
です。

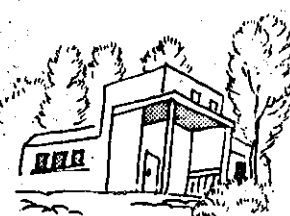
そんな差別を受けながら、
自分の寿命を知り、目の見え
ないフリリップの為、魚の採
り方や、のろしのあげ方など
時には叱り、励ましなが
ら、教えてくれたチモシーのこ
の美しい心に、私は強く打たれ

ました。
せ中や足の皮は、むけ、傷
ついておながらも、「フリリ
ップ。なんともなかった。」
と、やさしく握りしめた手は、
だんだんと冷たくこわばって
いったのです。

このチモシーに、フリリッ
プは、きつと差別を越えた友
情と、黒人を自分の仲間だと
悟ることができたのではない
かと思えます。

私は、海の音を聞く時、こ
の海のどこか小さな島に、チ
モシーは、一人眠っているの
かと思うと、静かに目をとじ
たくなります。

私は、この物語から、人を
差別することなく、全ての人
間は、私達の仲間だというこ
とを、強く感じました。



「読後感」

担任 永野 正彌

この物語には、白人が、黒人にもつ人種偏見が扱われていますが、アメリカにおいては、この黒人問題が、いちばん大きな社会問題であり、黒人解放運動が盛んであることは、私達のよく承知していることであります。

人種差別を越えて結ばれた盲目の少年と、老黒人の人間愛の物語。ハリケーンの中で少年をかばっていく老人の愛情が胸に響いてきます。

「大島さつき」さんが、この作品を読み、自分の経験を通して、生に対する願いや、どう生きていくべきかを、探り当てて書いているこの文の印象は、鮮明である。

また、この感想文から、戦争は、二度とくり返してはならないという告発さえ、今更のごとく感じさせられました。



“多いケガ”

三小教頭 本多 末勝

四月(九、五人)、五月(十一、二人)、六月(十二、一人)、七月(十一、五人)、九月(十一、九人)、十月(十一、五人)、十一月(八、一人)、十二月(九、四人)、一月(六、一人)。以上の数字は、本年度四月から、保健室で治療を受けた各月の一日平均の児童数であります。内容は、頭痛、腹痛も含まれていますが、大部分は、擦過傷、打撲傷、挫傷、切傷、捻挫、鼻出血、骨折等であります。

一日、十名といっても千人の中では、わずか一％ですが、一ヶ月で見れば、約二百五十名になります。

私は、市内勤務は、島四小の経験のみで、外は、郡部が長かったので、市内全般の事情については、暗い訳ですが、大規模校であることを、割引いて考えてみても、ケガの数は、確かに多いと考えられます。

以上のことと、毎日の子供の生活状況を見て感じますことは、生活指導にもっともつと努力しなければならぬという事です。

勿論、学校だけの問題ではなく、家庭も地域社会も、一致して、協力しなければ効果はあがりません。

本校では、本年度の努力目標一つに、特別活動の研究推進を掲げ、子供の自主的、自律的態度を育てることにより、基本的な生活態度を向上に努力しています。

現実を直視して、避けることなく、みんなが、勇氣と自信をもって、努力したいものです。

おしゃべりも

親の鏡

三小 西田 康男

十八年振りの三小、休み時間、大変にぎやかです。声高なおしゃべり、廊下をバタバタ走り抜ける足音、何もかも十八年前と同じで懐かしい気持ちになるのです。

「廊下は、かに歩きましょう。」という生活目標から見ると、休み時間のこのにぎやかさは、完全な反則です。

でも、思いきりおしゃべりしている生々した顔を見ると、静かに歩きましょうという事が、本当にいいことなのかと考えたくなります。

子供達の学校生活を、おしゃべりに限ってみつめてみると、いろいろとおもしろいことに気づきます。

まず、声の高さ、子供の声のことを「黄色い声」などと言いますが、黄色さもさまざま、カン高く耳に響くまっ黄色のもの、大人の声のように低い茶色のもの、音譜で表わせば、一オクターブ以上の開きがあります。

次に、声の大きさ。隣同志でも、大声でがなりたてる者。ささやきあうような細かい声。見かけによらぬ大声で、驚かせるお嬢さんもあります。

更に、変化のあるのが、話

す速さです。小鳥のさえずりにも似た唇の動きの速さ、一方ではスローテンポで、自分のことばを味わっている者……など、十人十色どころではありません。

おしゃべりを聞けば、○夫君、△さんとすぐ解るのも、これらの要素の組み合わせの妙が、顔つきのように個性となつて表れているからでしょう。

子は親の鏡といいますが、おしゃべりもその通りで、どこかにご両親の影響があり、PTAの時など、「ああ、A君にそっくりだなあ。」と思うことがあります。

もし、お家で、子供さんの話し声が、やかましいと思われたら、お家の方に、大声の方がおられることが多いのです。

ですから、「おしゃべりも親の鏡」なのです。



初めての子どもが 一年生になつて

靈南 松本真佐子

「ハイ」と、手を挙げるの半分までで、自信なげに下してしまつた入学の日。

しかし、今は違う様。元氣一杯高く挙がつている。本人なりに、努力しているのだなあと思う。

一学期中は、よく空の筆箱で掃宅し、母を驚かせた。のんびり過ぎて余裕がなく、あちこち押し込んで来る様子。動作を速くする訓練が、必要だつたと思う。

忘れ物の多かつた二学期の終わり頃から、鉛筆とぎ、りんごの皮むき、お茶碗拭きと何でもやらせてみた。

すると、何時の間にか、整える様になつて、筆箱の中を見せられ、「私、できるよ」になつたでしよう。という。

この間には、算数の置きも、あり、やはり親も願っている所を早く知り、導いてやったり、前もって、教科書を読む事等の大切さを感じました。

一寸したきつかけや、霧閉気作りで、子供は意欲を持つことを、父親の実践を見ていて、私もその態度、大切にしたいかなければと考えています。

季節の変わり目には、必ず休んでいた子が、学校は休めないという強い気持ちを持つ

ているらしく、発熱も一晩で治まり、翌朝は、出掛けてゆく程丈夫になり、喜んでおります。

やがて七才、「学校は、お友達がいって楽しい。」と言つて、毎日の出来事など、自分から話し、弟を可愛がる明るい子に育ちつつあるようです。

「いってきます」 「ただいま」

下川尻 梅林温代

一年前、桜の花が咲きほころぶ中を、親子共々、胸をはずませて、三小の校門をくぐつたのは、つい先日のように思われて参りません。

右も左も解らない子が、足し算、引き算、文章に対する読解力、漢字の読み書き、ハイモニカの吹き方等、日増に上達し、口返答までするようになりしました。

又、体が弱くて、幼稚園も年に三分の一は、休んでいた子が、一日も休まず「いってきます」一日も休まず「いって

きます」一、二、三、と、大きな声で、出掛けて帰つて来る姿に接し、蔭ながら涙が出て来る時もあります。

思い浮かべると、自分の三小を卒業して、早や二十有余年、今更ながら、恩志の面影が、忍ばれます。

に対する再認識と共に、先生方への感謝の気持ちでいっぱいでございます。

今後、益々成長する子供をやさしく見守っていただきたいと思ひます。

交通部の 活動報告

交通部長 高田喜三郎

一交通部会
去る二月十六日、校長室で市建設課の松田氏、上柿氏、民生課の松本氏を招き、白山地区の交通安全対策について話し合いました。

○国道二五二一線馬場蛭子町間防護柵設置の件
振興局でも、北門より浦田下までの防護柵設置を検討されているそうです。

すでに、浦田上町内会から陳情してあるとのこと、一日も早く完成するようお願いしました。

○下川尻南通学路整備の件
いろいろと検討してもらいましたが、予算的にも現在の通学路の整備は、可能ということです。

町内の方と、周辺地主の了承があれば、応急的な措置は、本年度中にでもできそうです。

○栄町交差点、二中間の道路わき暗渠設置の件
本年度中、着工のことで、三年来の努力が結ばれました。

○白山バイパス開通後の道路事情変化の件
広馬場、外港間が開通しますと、交通量の激増が予想されます。

中組、蛭子鼻、南風泊、川尻からの通学には、歩道橋が必要になってくることとです。

又、広馬場交差点は、五差路となり、現在以上に混雑するでしようし、学校、育友会でも、充分な対策をたてること、大切でしよう。

二活動の反省
○自転車の安全な乗り方
子供達の自転車の乗り方は、あい変わらず危険そのものです。解ついても実際には、守れない子供達に、地域の大人全員で、注意してやること大切でしよう。

五月に「お母さんの交通安全室」を開き、多くの参加をいただきまして、有意義だったと考えています。

○集団登校
高学年の責任あるリードで安全な登校が続けられています。しかし中には、遅れて登校する者もいます。

テレビマンガを見たいので、というものは、家庭でも、もう一度考えてほしいものです。

三おわりに
本年度は、今までにない大きな事故が多発しました。来年度は、白山バイパスが開通します。尚一層の活動が必要でしよう。「五の日の交通補導」も、更に力を入れなければならぬでしよう。

この一年間、交通部の活動交通補導に御協力下さいました部員並びに、会員の皆様、関係各位に、心からお礼を申し上げます。

なお、大隅先生には、御指導、御協力をいただき、感謝申し上げます。

編集後記

本年度の最終号をお届け致します。皆様方の御協力を得まして、無事三回発行することが、できました。

ありがとうございました。

本号では、三小育友会の本年度一年間の活動状況を、特集としてとりあげてみました。紙面の都合で、写真と簡単な記事になってしまいました。いかがでしたでしょうか。

ご感想、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

尚、来年度は、もっともっと、すばらしいクがんばりになりますよう期待しております。